

2020 年度「野生生物と社会」学会 総会 次第

日時：2020 年 12 月 19 日（土）13:00～14:00

Zoom を用いたオンライン開催

1. 会長挨拶（鈴木会長）
2. 第八期理事会体制について（資料 1：事務局）
3. 【議決事項 1】2019 年度事業報告・決算報告および監査報告（資料 2：事務局、監事）
4. 【議決事項 2】2020 年度事業計画・予算計画（資料 3：事務局）
5. 【議決事項 3】環境社会学会との連携について（資料 4：事務局）
6. 【報告事項 1】規約および方針の改訂について（資料 5：事務局）
7. 【報告事項 2】2020 年度「野生生物と社会」学会表彰 受賞者の紹介（資料 6：事務局）
8. 【報告事項 3】学術誌およびフォーラム誌発行状況（各誌編集委員長）
9. 【報告事項 4】活動報告：青年部会、行政研究部会（資料 7、8：各部部长）
10. 【その他 1】学会から発出した各声明について（事務局）
11. 【その他 2】次年度大会の開催方針について（鈴木会長）

「野生生物と社会」学会第八期理事会

任期：2020年4月1日～2023年3月31日（WF誌編集長以外）

会 長：鈴木正嗣（岐阜大学）

副会長：吉田正人（筑波大学）

理 事（選出）：江成広斗（山形大学）、梶光一（東京農工大学）、小寺祐二（宇都宮大学）、本田裕子（大正大学）、山端直人（兵庫県立大学）、八代田千鶴（森林総合研究所）、横山真弓（兵庫県立大学）

理 事（会長推薦）：土屋俊幸（東京農工大学）、西崎伸子（福島大学）

事務局長：角田裕志（埼玉県環境科学国際センター）

監事：岸本真弓（野生動物保護管理事務所）、丸山哲也（栃木県）

幹事（学術誌編集）：近藤麻実（秋田県）、久井貴代（北海道大学）

※正副会長と事務局長は理事を兼任する。

<学会誌編集委員長>

野生生物と社会：山端直人（兼任）

ワイルドライフフォーラム：三ツ井聡美（山梨県富士山科学研究所）

<部会長>

青年部会：久保雄広（国立環境研究所）～10月末まで

 豆野皓太（北海道大学） 11月～

行政研究部会：横山真弓（兼任）

資料 2

2019年度「野生生物と社会」学会事業報告・会計報告

2019年度末会員数：519名（詳細は次頁および資料3を参照）

1. 会議

理事会	2019年 4月22日	酪農学園大学東京オフィス
	2019年11月22日	北陸先端科学技術大学院大学金沢駅前オフィス
総会	2019年11月23日	金沢星稷大学

2. 大会

第25回大会	2019年11月22日-11月24日	金沢星稷大学
--------	--------------------	--------

3. 学会誌等

学術誌	2019年 4月	6巻2号発行（前年度遅延分）
	2019年 4～12月	7巻電子版発行（5編）
	2020年 3月	7巻冊子体発行（希望者のみ有償配布）
フォーラム誌	2019年 8月	24巻1号発行
	2020年 2月	24巻2号発行

4. 部会活動等

青年部会	2019年11月	野生生物と農業の共生シンポジウム
行政研究部会	2019年11月	大会テーマセッション開催

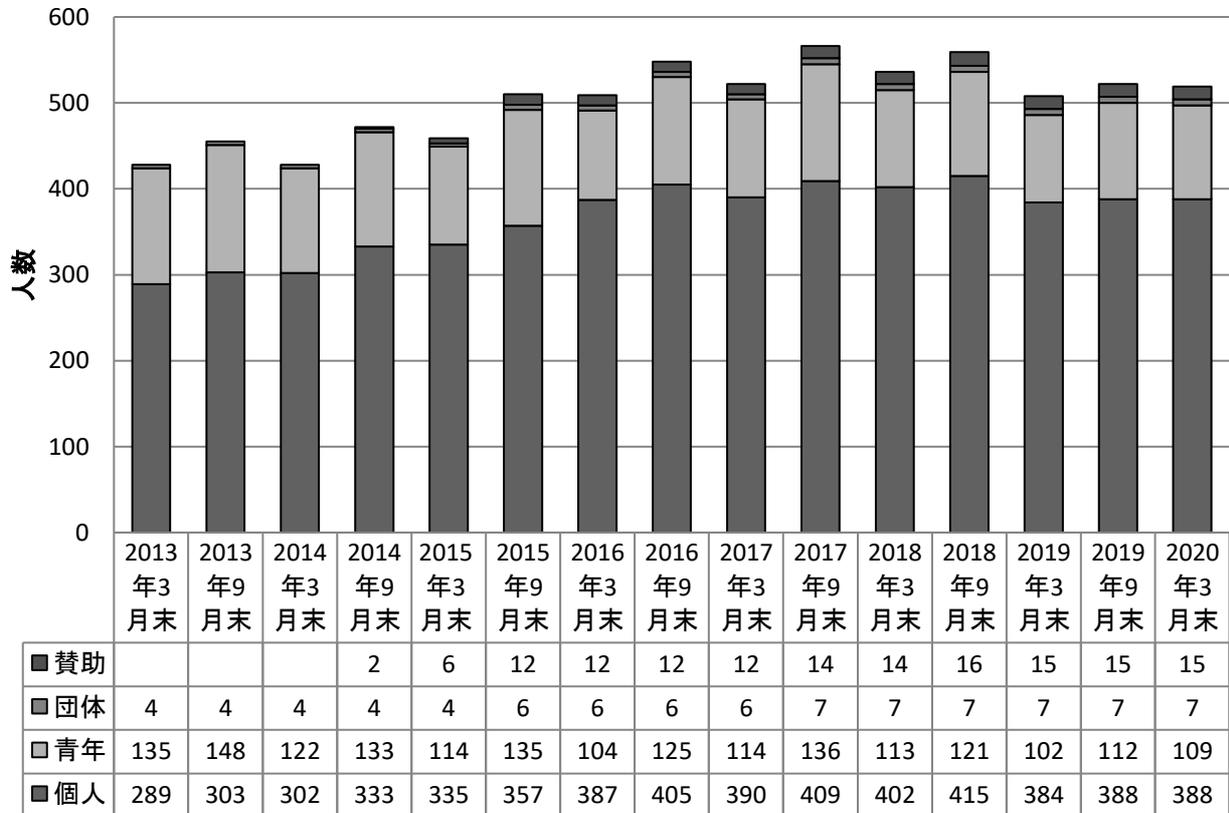
5. その他

2019年12月 日本学術振興会課題別委員会シンポジウム
外部シンポジウム等の後援：3件

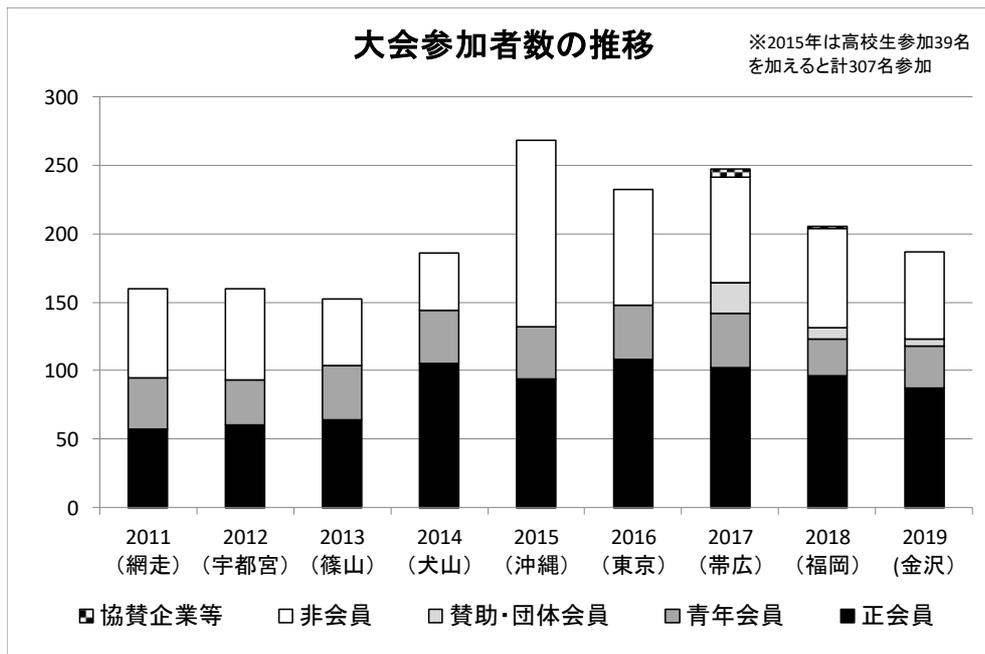
資料 2

2013年（名称変更）以降の会員数の推移

「野生生物と社会」学会 会員数の推移



最近の大会参加者数の推移（2017年度より集計区分を細分化）



「野生物と社会」学会 2019年度 会計報告書 (2019年4月1日～2020年3月31日)

【 1. 収支計算書 】

単位:円

科目	予算額	前期	後期	決算額	増減	備考
		4/1～9/30	10/1～3/31	(前期後期合計)	(決算-予算)	
会費収入 合計	4,425,000	730,000	3,662,000	4,392,000	△ 33,000	
～前年度会費	100,000	56,000	88,000	144,000		
当年度会費	1,000,000	602,000	332,000	934,000		
次年度会費	3,325,000	72,000	3,242,000	3,314,000		
雑収入 合計	15,010	11,115	8	11,123	△ 3,887	
電子図書著作権料	0	0	0	0		
バックナンバー・別刷	10,000	11,108	0	11,108		4冊
預金利子	10	7	8	15		
その他	5,000	0	0	0		
フォーラム誌関係収入	226,000	40,900	212,476	253,376	27,376	
F誌売上	10,000	13,900	5,476	19,376		15冊
F誌広告	216,000	27,000	207,000	234,000		24-1(3社)、24-2(2社)、通年(2社)
大会会計繰戻金	0	0	16,982	16,982	16,982	
当期収入合計(A)	4,666,010	782,015	3,891,466	4,673,481	7,471	
前年度繰越額	3,322,595	3,322,595	0	3,322,595	0	
収入合計(B)	7,988,605	4,104,610	3,891,466	7,996,076	7,471	

科目	当初予算額	前期	後期	決算額	増減	備考
		4/1～9/30	10/1～3/31	(前期後期合計)	(決算-予算)	
会誌発行費 合計	1,660,000	766,677	743,136	1,509,813	△ 150,187	
総合誌印刷費	450,000	232,200	137,500	369,700		学会誌7-1
F誌制作費	950,000	438,048	513,700	951,748		24-1、24-2
総合誌編集事務費	10,000	2,785	65,536	68,321		英文校閲
総合編集会議旅費	50,000	0	0	0		
F誌編集会議旅費	100,000	93,644	0	93,644		
J-Stage登載料	100,000	0	26,400	26,400		学会誌7-1
会誌発送関係費	150,000	47,948	50,770	98,718	△ 51,282	学会誌7-1、F誌
事務局運営費	361,800	116,818	175,733	292,551	△ 69,249	コピー代、郵送料、会誌保管料等
委託料	1,630,800	599,400	1,050,500	1,649,900	19,100	
会員業務	432,000	216,000	220,000	436,000		
事務局設置費	54,000	27,000	27,500	54,500		
会計業務	648,000	324,000	330,000	654,000		
フォーラム誌投稿窓口	64,800	32,400	33,000	65,400		
編集業務	432,000	0	440,000	440,000		
青年部会費	200,000	200,000	0	200,000	0	
行政部会費	150,000	0	0	0	△ 150,000	
ホームページ関係費	200,000	20,299	162,132	182,431	△ 17,569	
手数料 合計	40,000	38,980	25,345	64,325	24,325	
振込手数料	20,000	7,776	5,610	13,386	△ 6,614	
その他手数料	20,000	31,204	19,735	50,939	30,939	クレジットカード利用月次費用(4月～9月)、会誌販売手数料
その他 合計	540,000	194,212	13,280	207,492	△ 332,508	
理事会費	250,000	157,070	0	157,070		理事会交通費
WG会議旅費	50,000	0	0	0		
選挙管理費	200,000	27,142	13,280	40,422		
雑費	40,000	10,000	0	10,000		男女共同参画学協会分担金
大会支援費	100,000	0	14,000	14,000	△ 86,000	懇親会費免除
大会会計繰入金	0	0	0	0	0	
支出合計(C)	5,032,600	1,984,334	2,234,896	4,219,230	△ 813,370	
次期繰越収支差額(B-C)	2,956,005	2,120,276	1,656,570	3,776,846	820,841	

監査報告書

「野生生物と社会」学会
会長 鈴木正嗣 殿

「野生生物と社会」学会会則および会計監査実施基準に基づき、2019年度の収支決算書の監査を実施いたしましたので、下記の通り結果を報告いたします。

記

異常が無いことを認める。

監査年月日： 2020年 10月 16日

監査(自署) 丸山哲也 

監査(自署) 岸本真弓 

以上

資料 3

2020年度「野生生物と社会」学会事業計画・予算案

1. 会員

会員区分	個人	青年	団体	賛助	合計
2019年度当初会員数	384	102	7	15	508
新入会員数	17	25	0	0	42
退会者数	24	12	0	0	36
会員区分変更者	10	△ 10	0	0	8
2019年度末会員数	388	109	7	15	519
増減	4	7	0	0	11

※賛助会員口数は2019年度3月末時点で16口

※年度末数には仮入会の正会員1名、青年4名を含む

2. 会議

理事会 2020年 5月24日 オンライン会議

 2020年12月19日 オンライン会議

総 会 2020年12月19日 オンライン会議

3. 大会

第25回大会 ※2021年度に延期

4. 学会誌等

学術誌 通年 8巻 (J-STAGEにて順次掲載、2020年1～12月搭載分が対象)

 2021年 3月 8巻冊子体発行予定 (希望する個人会員への有償配布)

WF誌 2020年 8月 25巻1号発行予定

 2021年 2月 25巻2号発行予定

5. 部会活動等

各部会提出資料を参照

6. 表彰

若手奨励賞2名

7. その他

市街地に出没したイノシシ対応への声明 (2020年9月)

「日本学術会議第25期推薦会員任命拒否」に関する理事会声明 (2020年11月)

環境社会学会との学会間相互連携 (2020年12月予定)

資料 3

「野生物と社会」学会 2020年度予算案（2020年4月1日～2021年3月31日）

【 1. 収支計算書 】

科 目	2020年度予算額	2019年度予算額	増減	2019年度決算額	2018年度決算額	2019年度決算額	当年度予算備考
			(2020-2019)	(参考)	(参考)	との比較	
会費収入 合計	4,285,000	4,425,000	△ 140,000	4,392,000	4,216,000	△ 107,000	
～前年度会費	100,000	100,000	0	144,000	120,000	△ 44,000	
当年度会費	1,000,000	1,000,000	0	934,000	900,000	66,000	
次年度会費	3,185,000	3,325,000	△ 140,000	3,314,000	3,196,000	△ 129,000	
雑収入 合計	10,010	15,010	△ 5,000	11,123	37,871	△ 1,113	
電子図書著作権料	0	0	0	0	0	0	
バックナンバー	10,000	10,000	0	11,108	0	△ 1,108	
預金利子	10	10	0	15	11	△ 5	
その他	0	5,000	△ 5,000	0	37,860	0	
雑誌関係収入	244,000	226,000	18,000	253,376	407,778	△ 9,376	
雑誌売上	10,000	10,000	0	19,376	2,778	△ 9,376	
雑誌広告	234,000	216,000	18,000	234,000	405,000	0	
大会会計繰戻金	0	0	0	16,982	221,169	△ 16,982	
当期収入合計(A)	4,539,010	4,666,010	△ 127,000	4,673,481	4,882,818	△ 134,471	
前年度繰越額	3,776,846	2,647,800	1,129,046	3,322,595	3,182,663	454,251	
収入合計(B)	8,315,856	7,313,810	1,002,046	7,996,076	8,065,481	319,780	

科 目	2020年度予算額	2019年度予算額	増減	2019年度決算額	2018年度決算額	2019年度決算額	当年度予算備考
			(2020-2019)	(参考)	(参考)	との比較	
会誌発行費 合計	1,320,000	1,660,000	△ 340,000	1,509,813	1,825,377	△ 189,813	
総合誌印刷費	150,000	450,000	△ 300,000	369,700	242,352	△ 219,700	有償配布分
J-SATGE搭載費	100,000	100,000	0	26,400	26,460		
F誌制作費	1,000,000	950,000	50,000	951,748	1,443,312	48,252	
総合誌編集事務費	70,000	10,000	60,000	68,321	6,025	1,679	
総合誌編集会議旅費	0	50,000	△ 50,000	93,644	0	△ 93,644	オンライン会議に変更
F誌編集会議旅費	0	100,000	△ 100,000	0	107,228	0	オンライン会議に変更
会誌発送関係費	100,000	150,000	△ 50,000	98,718	143,367	1,282	
事務局運営費	300,000	381,800	△ 81,800	292,551	187,310	7,449	
委託料	1,660,000	1,630,800	29,200	1,649,900	1,630,800	10,100	
会員業務	440,000	432,000	8,000	436,000	432,000	4,000	
事務局設置費	55,000	54,000	1,000	54,500	54,000	500	
会計業務	650,000	648,000	2,000	654,000	648,000	△ 4,000	
フォーラム誌投稿窓口	65,000	64,800	200	65,400	64,800	△ 400	
編集業務	450,000	432,000	18,000	440,000	432,000	10,000	
青年部会費	200,000	200,000	0	200,000	300,000	0	企画実施等の状況による
行政部会費	0	150,000	△ 150,000	0	150,000	0	
ホームページ関係費	200,000	200,000	0	182,431	130,780	17,569	
手数料 合計	70,000	40,000	30,000	64,325	47,082	5,675	
振込手数料	20,000	20,000	0	13,386	13,572	6,614	
その他手数料	50,000	20,000	30,000	50,939	33,510	△ 939	
その他 合計	725,000	540,000	185,000	207,492	287,670	517,508	
理事会費	25,000	250,000	△ 225,000	157,070	245,600	△ 132,070	オンライン、zoom利用料等計上
WG会議旅費	100,000	50,000	50,000	0	0	100,000	学会連携関係として計上
学会賞関連経費	50,000	0	50,000	0	0	50,000	副賞等
青年会員緊急支援費	500,000	0	500,000	0	0	500,000	
選挙管理費	0	200,000	△ 200,000	40,422	0	△ 40,422	
雑費	50,000	40,000	10,000	10,000	42,070	0	40,000
大会支援費	100,000	300,000	△ 200,000	14,000	40,500	86,000	
支出合計(C)	4,675,000	5,232,600	△ 557,600	4,219,230	4,742,886	455,770	

次期繰越収支差額(B-C)	3,640,856	2,081,210	-	3,776,846	3,322,595	-
単年度収支差額(A-C)	△ 135,990	△ 566,590	-	454,251	139,932	-

<会計に関する備考>

- ・学会誌電子化、部会費削減等の協力と会費徴収率の増加によって、第7期理事会中の単年度収支は黒字化を達成（2017年度：1,020,110円、2018年度：139,932円、2019年度：454,251円）。
- ・過去3年間利用実績がなかったため、大会専用のクレジット決済システムは解約（5月末）。
- ・理事会、委員会、部会の会議は原則としてオンライン会議とするため一律で予算削減。

「野生生物と社会」学会 会長および担当者様

2020年1月12日
環境社会学会会長 井上真

当学会では、関連する他学会との連携を推進する方針で準備を進めています。そして、貴学会を連携学会の有力候補として考えております。

具体的な連携内容としては、次のような2ケースを想定しています。(A) 一方向の連携：(1) 連携学会の会員は環境社会学会の大会に参加できる（発表は不可）。(2) その場合、環境社会学会の会員と同じ参加費を支払うものとする。(B) 双方向の連携：(1) 連携学会と環境社会学会の会員はお互いの大会に参加できる（発表は不可）。(2) その場合、互いの会員と同じ参加費を支払うものとする。

もちろん、どちらかに不利益が生じた場合は協議して連携を破棄することができます。

このような連携を実現するにあたり、当学会は下記のスケジュールを想定しており、貴学会が賛同してくだされば下記のような覚書（案）の締結を予定しています。

つきましては、貴学会の理事会等でご検討いただき、(A) か (B) のどちらが可能性を有するのかなど、できれば3月上旬までに暫定的なご意見をいただけるとありがたいです。なお、当学会での今年度の正式な承認は2020年6月（総会）となりますので、暫定的なご意見をいただいた後、正式な回答を5月上旬までにいただければ、6月の総会で正式承認され、12月の大会から実施可能となります。

もちろん、その前にお互いの意見交換が可能ですし、覚書（案）の修正も可能ですので、忌憚のないご意見をお待ちしております。連絡は井上 (makinoue@waseda.jp) まで直接いただくと幸いです。

前向きにご検討していただけることを願っています。

<環境社会学会側のスケジュール>

- ・2020年1月-3月：候補学会の感触を探る ←これが現時点
- ・2020年3月：環境社会学会理事会で承認。
- ・2020年6月：環境社会学会総会で承認。その後、「覚書」への署名
- ・2020年12月：大会で実施

<覚書の文案>

「学会連携に関する覚書」(案)

**学会（以下「甲」とする）と環境社会学会（以下「乙」とする）は、以下の事項について合意した。

1. 甲と乙は複雑化する今日の問題に対応するためには学会の枠を超えた連携が必要であるという認識を共有し、そのための一手段として本覚書を締結する。

2. <一方向の場合>

乙は、乙が開催する大会（毎年2回開催）および他の行事に対し、甲の会員が参加（研究発表は不可）することを奨励する。そのため、乙は甲を「連携学会」としてウェブサイト上に表記し、甲の会員が乙の会員と同等な条件（参加費）で大会に参加できる仕組みを整える。

<双方向の場合>

資料4

両学会は開催する大会および他の行事に対し、連携学会の会員が参加（研究発表は不可）することを奨励する。そのため、両学会は連携学会を「連携学会」としてウェブサイト上に表記し、会員と同等な条件（参加費）で連携学会の会員が大会に参加できる仕組みを整える。

3. 連携のための具体的な手段は次のとおりである。

(ア) <一方向の場合>

甲はウェブサイトで乙の名称を明記し、学会ウェブサイトへのリンクを設定する。これにより、甲の会員は乙の大会等に関して必要な情報を入手することが可能となる

<双方向の場合>

両学会はそれぞれのウェブサイトで連携学会の名称を明記し、学会ウェブサイトへのリンクを設定する。これにより、双方の会員は連携学会の大会等に関して必要な情報を入手することが可能となる。

(イ) <一方向の場合>

大会等の日程の決定時、および大会プログラムの決定時など乙がMLで会員に周知させている内容については、乙の事務担当者から甲の事務担当者に情報を提供する。甲の事務担当者はその内容を会員に知らせる。

<双方向の場合>

大会等の日程の決定時、および大会プログラムの決定時など各学会がMLで会員に周知させている内容については、各学会の事務担当者から連携学会の事務担当者に情報を提供する。各学会の事務担当者は連携学会から受けた内容を会員に知らせる。

(ウ) <一方向の場合>

乙の事務担当者は、大会等の終了後に、甲からの参加人数者を甲の事務担当者に知らせる。

<双方向の場合>

両学会の事務担当者は、大会等の終了後に、連携学会からの参加者人数を連携学会の事務担当者に知らせる。

4. <一方向の場合>

本覚書は、甲の会員が乙の大会等へ参加するという一方向の連携である。甲が乙との双方向的な連携へと深化させる方針を決めた際には、その内容を盛り込んだ新たな覚書を締結する。そして、その時点で本覚書は自動的に破棄される。

<双方向の場合>

この条項は不要。

5. 本覚書により甲か乙かのどちらかに不利益等が生じた場合、あるいは本覚書が不要になった場合は、協議により、甲乙の代表者による署名入りの文書をもって本覚書を破棄することができる。

以上を合意した証として、本書を二通作成し、甲乙署名捺印のうえ、各々一通を所持する。

2020年**月**日

甲 ***学会

会長： **** (会長印)

乙 環境社会学会

会長： 井上真 (会長印)

「学会連携に関する覚書」

「野生生物と社会」学会（以下「甲」とする）と環境社会学会（以下「乙」とする）は、以下の事項について合意した。

1. 甲と乙は複雑化する今日の問題に対応するためには学会の枠を超えた連携が必要であるという認識を共有し、そのための一手段として本覚書を締結する。
2. 両学会は開催する大会および他の行事に対し、連携学会の会員が参加することを奨励する。そのため、両学会は連携学会を「連携学会」としてウェブサイト上に表記し、会員と同等な条件（参加費）で連携学会の会員が大会に参加できる仕組みを整える。
3. 連携のための具体的な手段は次のとおりである。
 - (1) 両学会はそれぞれのウェブサイトで連携学会の名称を明記し、学会ウェブサイトへのリンクを設定する。これにより、双方の会員は連携学会の大会等に関して必要な情報を入手することが可能となる。
 - (2) 大会等の日程の決定時、および大会プログラムの決定時など各学会がMLで会員に周知させている内容については、各学会の事務担当者から連携学会の事務担当者に情報を提供する。各学会の事務担当者は連携学会から受けた内容を会員に知らせる。
 - (3) 2で定めた連携学会の会員の参加条件の融通は原則として個人会員に限る。連携学会の会員による研究発表および集会等の企画は原則として不可とするが、甲の大会の「テーマセッション」において乙の会員が研究発表することは差し支えない。
 - (4) 両学会の事務担当者は、大会等の終了後に、連携学会からの参加者人数を連携学会の事務担当者に知らせる。
 - (5) 甲乙双方の合意の下でいずれかの大会等において連携企画を開催する場合には、研究発表の可否について各学会の事務担当者と大会関係者の協議のうえで詳細を決定する。また、双方の企画責任者の合意の下で連携企画の成果をいずれかの会誌等にて発表する場合には、発表を予定する会誌の編集委員会と協議のうえで進める。
4. 本覚書により甲か乙かのどちらかに不利益等が生じた場合、あるいは本覚書が不要になった場合は、協議により、甲乙の代表者による署名入りの文書をもって本覚書を破棄することができる。

以上を合意した証として、本書を二通作成し、甲乙署名捺印のうえ、各々一通を所持する。

2020年12月 日

甲 「野生生物と社会」学会
会長： 鈴木正嗣 （会長印）

乙 環境社会学会
会長： 井上真 （会長印）

2020 年 11 月 11 日

規約および方針の改訂について

「野生性生物と社会」学会事務局長
角田 裕志

理事会審議におきまして下記の規約および方針について改訂いたしましたので報告します。最新の規約と方針については当会ウェブサイトにて公開しておりますので、記載の URL からご確認ください。

「野生生物と社会」学会賞表彰規約（2020 年 5 月 24 日改訂）

<http://www.wildlife-humansociety.org/info/kiyaku/hyousyyou.html>

事務局等所在地規約（2020 年 6 月 30 日改訂）

<http://www.wildlife-humansociety.org/info/kiyaku/jimukyoku.html>

青年部会規約（2020 年 11 月 11 日改訂）

<http://www.wildlife-humansociety.org/info/kiyaku/seinen.html>

規約体系化方針（2020 年 5 月 24 日改訂）

<http://www.wildlife-humansociety.org/info/kiyaku/taikeika.html>

情報公開方針（2020 年 5 月 24 日改訂）

<http://www.wildlife-humansociety.org/info/kiyaku/johokokai.html>

個人情報保護方針（2020 年 6 月 30 日改訂）

<http://www.wildlife-humansociety.org/info/kiyaku/kojin.html>

大会開催方針（2020 年 5 月 24 日改訂）

<http://www.wildlife-humansociety.org/info/kiyaku/taikaihosin.html>

名義使用方針（2020 年 5 月 24 日改訂）

<http://www.wildlife-humansociety.org/info/kiyaku/meigisiyou.html>

2020 年度「野生生物と社会」学会賞 受賞者

2020 年 10 月 23 日の学会表彰審査委員会ならびに 2020 年 11 月 9 日の理事会 ML 審議により、2020 年度は若手奨励賞 2 名を表彰することとなりました。

2020 年度学会賞 受賞者

該当なし。

※本年度は申請が計 1 件（他薦）あったが、審議の結果、研究・実務における成果について途上段階にあると結論し、表彰を見送った。

2020 年度若手奨励賞 受賞者（2 名）

久保 雄広 氏（国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター 主任研究員）
「経済学的アプローチによる生物多様性保全の評価・設計に関する研究」

桜井 良 氏（立命館大学政策科学部 准教授）

「ヒューマンディメンション（野生動物管理における社会的側面）の
日本における発展を目指した研究」

※本年度は申請が計 2 件（自薦 1 件、他薦 1 件）あり、審議の結果、両候補者とも表彰要件を十分に満たす研究成果を上げていると結論した。

2020年5月24日「野生生物と社会」学会理事会
「野生生物と社会」学会青年部会報告資料青年部会

事務局長 加藤恵里

1. 2019年度活動報告について
2. 2020年度活動計画について
3. 2019年度決算および2020年度予算案

1. 2019年度活動報告について（別紙参照）

- ・野生生物と農業の共生シンポジウム 2019年11月16日開催
- ・宝篋山企画 ※延期
- ・統計セミナー企画 ※延期

2. 2020年度活動計画について

- 5月：理事会
- 6月：幹事会実施：2020年度予算・企画の相談（オンライン）
- 9月：幹事会実施：大会企画の検討や選挙に関する相談（オンライン）
- 11月：年次大会（総会での選挙後、新体制での幹事会）

※ 企画の実施に関しては、情勢に合わせ検討。オンライン企画も視野に入れる。

3. 2019年度決算および2020年度予算案（別紙参照）

- ・2019年度決算は、企画が延期になったため、繰越金が多くなった。
- ・2020年度予算に関しては、大幅な変更の可能性あり。

資料7

「野生生物と社会」学会 青年部主催 公開シンポジウム報告
野生生物と農業の共生シンポジウム：社会科学的視点からのアプローチ

【日時】 2019年11月16日（土） 14:30～17:00 （開場：14:15～）

【場所】 TKP スター貸会議室 四谷 第1会議室（入場無料）

参加者：16名（+幹事2名）

（学会員4名，非学会員12名）

主な情報源：jeconet

【講演会】

・久保・豆野「趣旨説明」

○高山氏「日本型直接支払と政策評価－中山間地域等直接支払制度を対象に－」

- ・日本型直接支払制度に関する全体概要の説明
- ・因果関係と相関関係の違い、因果推論手法に関する説明
- ・中山間地域等直接支払制度を事例に因果推論手法による直接支払制度が農地維持に与える影響を評価

→フロアーとのディスカッションでは、モデルに限界や保全政策にも適用していくことの難しさがあった。

○上松氏「環境直接支払における結果支払の効率性－オークション実験による行為支払との比較－」

- ・現在の環境直接支払制度に関する説明：特に利点欠点を中心とした説明
- ・EUで導入または導入の検討されている結果支払による環境直接支払制度の概要説明
- ・経済実験に関する説明と実施方法・結果の説明、経済実験の結果が、政策インプリケーションとしてどのようなメッセージを提供できるのか

→フロアーとのディスカッションでは、結果支払の難しさやモニタリングコストを考慮したときの効率性などがあがった。

○今井氏「地域資源に対する価値観がため池保全行動意図に及ぼす影響の解明－農業従事者への調査－」

- ・農業と生物多様性保全に関する現状の整理・説明
- ・現場では、どのような管理が行われているのかに関する説明
- ・行動計画理論に関する説明と先行研究のレビュー
- ・ため池の環境価値や農業価値が重要なファクターになっていることや生物多様性保全に対する認識等の説明

→フロアーとのディスカッションでは、環境価値や農業価値の他にもヘルス的な価値に着目することが今後の研究に重要ではないかとの話題があがった。

資料7

○その他ディスカッション話題

- ・ 保全分野における政策インプリケーションに関して、論文以外にも政策インプリケーションをもっと活発に行なっていくべき。
- ・ 国会図書館を有効に使っていく必要などが話し合われた

【支出について】

申請予算案

項目	用途	金額	備考
準備予算	ご挨拶・打合せ費用	¥48,920	福島大学、名古屋大学、茨城大学
実施予算	シンポジウム実施費	¥122,520	
合計		¥171,440	

決済報告

項目	用途	金額	備考
準備予算	ご挨拶・打合せ費用	¥47,793	福島大学×2、茨城大学
実施予算	シンポジウム実施費	¥99,582	
合計		¥147,375	

資料7

収支報告書
 「野生生物と社会」学会青年部会2019年度予算案
 会計報告責任者:加藤恵里(滋賀県立大学)
 作成年月日:2020年3月16日

単位:円

	科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
収入の部	(基本収入)						
	2018年度繰越金	192,238			192,238	0	
	2019年度支援金	200,000			200,000	0	
	(事業収入)						
	現場企画	60,000				△ 60,000	※宝篋山企画(4万円)延期
	シンポジウム企画	20,000			0	△ 20,000	11月16日シンポ(参加費なし)
(その他)							
雑収入	0			1	1	利子	
収入合計		472,238			392,239	△ 79,999	

	科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
支出の部	(事業支出)						
	現場企画	200,000				△ 200,000	※宝篋山企画(19万円)延期
	シンポジウム企画	100,000			144,651	44,651	11月16日シンポ
	大会企画	30,000				△ 30,000	
	企画公募	100,000				△ 100,000	
	(事務・その他)						
	交通費	30,000			31,440	1,440	理事会旅費
	文具	2,000				△ 2,000	
	雑費	2,000			660	△ 1,340	振り込み手数料
	通信費	0				0	
支出合計		464,000			176,751	△ 287,249	

科目	当初予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
収入合計	472,238			392,239	△ 79,999	
支出合計	464,000			176,751	△ 287,249	
収支差額	8,238			215,488	207,250	

資料7

2020-12-19：「野生生物と社会」学会 理事会

青年部会新三役：

部会長：豆野； 副部会長：遠藤； 事務局長：神宮（敬称略）

1: R2 報告

官民学による野生生物問題への取り組み with コロナ

- 担当幹事：相澤あゆみ，七条知哉，遠藤友彦，久保雄広
- 日時：2020年10月31日（土）15：00～18：00
- 開催方法：オンライン（Zoom）
- 参加団体：合同会社AMAC，パシフィックコンサルタンツ株式会社，株式会社野生鳥獣対策連携センター，滋賀県立大学，農研機構中央農業研究センター，福島県耶麻郡猪苗代町役場
- 参加者：40名（学生：29名，社会人：2名，演者：6名，スタッフ：3名）
- 学生内訳：学部15名，修士10名，博士4名
- 主な企画内容：
各演者が職種について①所属紹介，②業務内容，③コロナの前後での働き方の違い，④学生への一言という発表構成に沿って，20分間で紹介を行った。質疑応答では学生から，雇用形態や福利厚生などの具体的な質問があげられ，各演者からより詳細な説明も行われた。

資料7

収支報告書
 「野生生物と社会」学会青年部会2020年度予算案
 会計報告責任者:加藤恵里(滋賀県立大学)
 作成年月日:2020年3月16日

単位:円

	科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
収入の部	(基本収入)						
	2019年度繰越金	215,487				△ 215,487	
	2020年度支援金	200,000				△ 200,000	
	(事業収入)						
	現場企画	40,000				△ 40,000	
シンポジウム企画	20,000				△ 20,000		
(その他)							
雑収入	0				0		
	収入合計	475,487			0	△ 475,487	

	科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
支出の部	(事業支出)						
	現場企画	200,000				△ 200,000	
	シンポジウム企画	80,000				△ 80,000	
	大会企画	150,000				△ 150,000	
	(事務・その他)						
	交通費	30,000				△ 30,000	理事会旅費
	文具	2,000				△ 2,000	
	雑費	2,000				△ 2,000	
	通信費	0				0	
	支出合計	464,000			0	△ 464,000	

	科目	当初予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
	収入合計	475,487			0	△ 475,487	
	支出合計	464,000			0	△ 464,000	
	収支差額	11,487			0	△ 11,487	

1: R2-R3 計画

オンラインシンポジウム - 「(仮)空間スケールに応じた野生動物管理の在り方」

野生動物管理を担う多様な職種の中で行政に焦点を当て、国や都道府県、市町村という複数スケールでの野生動物管理に対する取り組みと課題を提供し、今後の日本の野生動物管理を担う若い人材に現状を把握してもらうことを目的とする。

- 予定日時：2021年1月23日(土)または24日(日)13~16時
- 開催方法：オンライン(Zoom)
- 参加費：無料(非会員歓迎)
- 参加方法：事前申し込み者に対して参加URLを通知、

申し込み締め切りは開催1週間前を予定

(12月初旬までに詳細な情報を公開します。)

オンライン研究交流会 「緑の場と人々~自然と社会の関わりとは~」(仮)

※2021年3月週末で検討中

国立公園のような自然公園から、都市の公園や緑地にいたるまでの様々な緑の場において、自然と人間がどのような関係を築いているか、研究交流を行う。

演者は、若手の研究者、学生を中心に募る。各自の研究について発表し合い、それらを議論・交流する場を設ける。

2019 年度事業実施報告(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

I 事業計画

1. 部会総会の開催

第 25 回「野生生物と社会」学会大会にあわせて部会総会を実施。

日時：2019 年 11 月 22 日(金)

場所：北陸科学先端技術大学院大学金沢駅オフィス

2. 第 25 回「野生生物と社会」学会・テーマセッションの開催

テーマ：「鳥獣で喰う2ー研究を職業とするためのわらしべ交換ー」

日時：2019 年 11 月 24 日(日)10:45～12:15

場所：金沢星稜大学 C 館

参加者数：67 名

3. 研究会の開催

日本学術会議が主催する公開シンポジウムの共催。

「持続可能な野生動物管理システムの構築と人材育成」

主催：日本学術会議課題別委員会「人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会」

共催：「野生生物と社会」学会・野生動物管理全国協議会

日時：2019 年 12 月 3 日(火)13:00～17:00

場所：日本学術会議 講堂

※Wildlife Forum 24 巻 1 号(2019 年 8 月)に報告記事

4. 野生生物行政に関する情報源情報の整備

平成 23 年度および 24 年度に実施した「鳥獣行政」「野生生物保護行政」のアーカイブを引き続きホームページで公開。部会員以外は目次のみ閲覧可。

5. 野生生物行政に関する普及啓発手法の研究

6. 野生生物行政に関する情報の発信または提言

7. 重点プロジェクト「行政ニーズ課題プロジェクト」の設置

行政課題のニーズを把握するため、人材配置や捕獲と資源化に関して、議論を行ったが、会員向け web アンケート等まで実施できなかった。

8. その他

幹事に新たに森元萌弥氏が就任。

2019 年野生生物 10 大ニュースの選定・発表を年末に実施。

II その他

1. 部会員名簿の管理

2020 年 3 月 31 日時点の会員数

部会員 110 名(2018 年度末より 1 名増)

準部会員 90 名(2018 年度末より 2 名増)

2019 年度収支報告

(会計年度:2019 年 4 月 1 日~2020 年 3 月 31 日)

1. 一般会計

(歳入の部)

(単位 円)

項 目	予算	収入	支出	摘 要
1. 学会からの資金	0		—	「野生生物と社会」学会から
2. 2018 年度からの繰越金	174,523	174,523	—	
3. 雑収入	1	1		預金利息
合 計	174,524	174,524	—	

(歳出の部)

1. 事業費	(1)研究会の開催	5,000	—	11,000	12/3 共催シンポ アルバイト代 1 名
	(2)野生生物行政に関する情報源情報の整備	5,000	—	0	資料複写代、交通費等
	(3)野生生物行政に関する普及啓発手法の研究	3,000	—	0	交通費等
	重点プロジェクト「行政ニーズ課題プロジェクト」	53,000	—	0	
2. 管理費	事務作業手当	20,000	—	20,000	1 名。部会員・ML 管理、会計管理等
	消耗品費	1,000	—	0	文具、用紙等
	会議費	3,000	—	0	会場費、茶菓等
	幹事会出席旅費	80,000	—	0	
	印刷経費	2,000	—	4,625	チラシ、資料作成等
	通信費	1,000	—	0	資料郵送代等
	雑費	1,000	—	0	送金手数料等
3. 予備費	524	—	0		
合 計	174,524	—	35,625		

歳入－歳出＝138,899 円

2020 年 5 月 24 日

「野生生物と社会」学会行政研究部会

部会長 横山真弓

総務 野崎英吉

奥山正樹

2020 年度事業実施計画 (2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

I 事業計画

1. 部会総会の開催

第 26 回「野生生物と社会」学会大会にあわせて部会総会を実施。

日時：2020 年 11 月 21 日～23 日のいずれかの日

場所：岐阜大学

2. 第 26 回「野生生物と社会」学会・テーマセッションの開催

テーマ：未定

3. 研究会の開催

本年度については、開催方法を協議する予定。開催の有無も含めて検討中。

4. 野生生物行政に関する情報源情報の整備

平成 23 年度および 24 年度に実施した「鳥獣行政」「野生生物保護行政」のアーカイブを引き続きホームページで公開。

5. 野生生物行政に関する普及啓発手法の研究

6. 野生生物行政に関する情報の発信または提言

7. 重点プロジェクト「行政ニーズ課題プロジェクト」の設置

イノシシの急激な分布拡大や CSF が収束しないこと、クマ類による人身事故の増大など課題が山積しているため、提言をまとめる方針などを検討する。

8. その他

2020 年野生生物 10 大ニュースの選定・発表を年末に実施。

II その他

1. 部会員名簿の管理

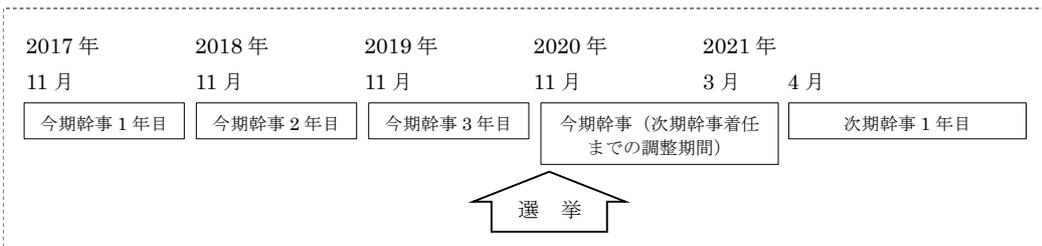
2. 来期幹事の選出

来期(2021 年 4 月～2024 年 3 月)の幹事を今期に行う選挙によって選出。

任期は 3 年間。

<参考>

旧部会規定では今期幹事は 2017 年 11 月より 2020 年 10 月の 3 年任期で着任は「幹事の選出を行った部会総会時」としていたが、事業および会計の年度の期間と合わせるのが望ましいため、着任の時期を 4 月 1 日とし、今期幹事の離任を 2021 年 3 月、任期を 3 年 5 ヶ月としたいことを部会より 2019 年 4 月に理事会にお諮りし承認。来期運営役員は総会時に選出し、2020 年 4 月 1 日に着任。選出から着任までの期間は調整期間とする。



2020 年度収支予算

(会計年度:2020 年 4 月 1 日~2021 年 3 月 31 日)

1. 一般会計

(歳入の部)

(単位 円)

項 目	予算	摘 要
1. 学会からの資金	0	「野生生物と社会」学会から
2. 2019 年度からの繰越金	138,899	
3. 雑収入	—	
合 計	138,899	

(歳出の部)

1. 事業費	(1)研究会の開催	15,000	講師謝金等
	(2)野生生物行政に関する情報源情報の整備	5,000	資料複写代、交通費等
	(3)野生生物行政に関する普及啓発手法の研究	3,000	交通費等
	重点プロジェクト「行政ニーズ課題プロジェクト」	54,000	資料複写、アンケート送付経費等
2. 管理費	事務作業手当	20,000	1 名。部会員・ML 管理、会計管理等
	消耗品費	1,000	文具、用紙等
	会議費	3,000	会場費、茶菓等
	幹事会出席旅費	30,000	
	印刷経費	5,000	チラシ、資料作成等
	通信費	1,000	資料郵送代等
	雑費	1,000	送金手数料等
3. 予備費	899		
合 計	138,899		

2020 年 5 月 24 日

「野生生物と社会」学会行政研究部会

部会長 横山真弓

総務 野崎英吉

奥山正樹